

令和7年度医療的ケア児等コーディネーター事業報告

R8.4.1

項目	事業計画	数量的評価	取組からの成果	取組から見えた課題
相談対応	・当事者(家族)、関係機関からの相談に対応する。必要に応じて出張相談会を実施する。	・新規相談4人 ・継続相談1人 ・相談件数延べ(13 件) ・学校側との情報共有(12件)	・教育委員会と学校看護師との解決方法の検討を実施し、翌年より学校看護師を統括するアドバイザー看護師を採用の方向となった。	・医療的ケア児の保護者が医療的ケア児等コーディネーターの役割がわかりにくい。 ・学校での統一した医療行為を書面で指示、実施が管理ののむつかしさに対し解決策を検討する。
後方支援	・市内計画相談員への助言や必要に応じて訪問時に同行する。	・計画相談員への同行支援(6件) ・計画相談員への助言(7件) ・市内計画相談員へ医療的ケア児関連情報の提供(6回)	・計画相談員に同行することで、合理的配慮事項の相談をされる機会となった。	医療的ケア児等コーディネーターと計画相談員の役割分担や医療ケア児の課題と解決策を協議する必要がある。
事業周知活動	・近隣病院や芦屋市内訪問看護(リハ)、相談員、保健師に事業の周知を行う。	・市内幼稚園・保育所(25カ所)へ事業チラシを再送付。 ・関係機関に事業説明 ①芦屋市内訪問看護ステーション ②医療機関	・相談員や訪問看護師等に事業を周知することで、相談員からの相談につながったり、実際医療的ケア児が訪問看護(リハ)の利用につながっている。	・職員は毎年変わっていくため、毎年各機関に対して周知を行っていく必要がある。
事業周知冊子づくり	・市内医療的ケア児等コーディネーターや関係機関の意見を参考に芦屋市版医療的ケア児等支援ガイドブックを作成する。	・仮ガイドブックを関係機関からの訂正等(22回)	・事務局でガイドブック案を作成したが、実際に医療ケア児支援を行っている相談員等より多くの助言をいただくことが出来た。	ガイドブックの作成に関係機関の協力をいただき完成至った。
ネットワーク会議の運営・参加	・芦屋市内や阪神圏域、兵庫県内における医療的ケア児等コーディネーターの横のつながりづくり、情報共有の場の運営やネットワークへ参画する。	・医療的ケア児等コーディネーター連絡会 ①芦屋市(1回) ②阪神圏域(8回) ③兵庫県(1回)	・芦屋市の医療的ケア児等CN研修 ・阪神圏域の連絡会は、運営を各市町配置の医療的ケア児等コーディネーターが主になった。	・芦屋市内の連絡会コーディネーター、関係機関向け事例検討を計画。
市内関連会議への参加	・芦屋市や芦屋健康福祉事務所が実施する関連会議へ参画する。	・芦屋市医療的ケア児等支援協議会(1回) ・芦屋市在宅人工呼吸器装着難病患者にかかる災害時対応連絡会(1回) ・幼保医療ケア児支援会議(2回)	・各会議へ参加することで、芦屋市内における医療的ケア児の実態やご家族の思いを確認することが出来た。	・医療的ケア児等コーディネーターの周知や地域資源が不足しているため、関係機関や地域に医療的ケア児の周知を行う必要がある。
研修会への参加	・研修会に参加し、医療的ケア児支援に関する知識を習得し、支援に生かすとともに必要に応じて市内関係者に情報を周知する。	・医療的ケア児等コーディネーター研修 ①兵庫県看護大学(1回) ②兵庫県(1回) ③こども病院地域連携研修(1回) ④身体障がい児者父母の回研修(1回) ⑤全国医療的ケア児支援協議会会議(1回)	・日々変化する医療的ケア児に関する知識や他市の取組を学び、必要に応じて市内相談員等にそこで知った情報を周知した。	・他市で参考になる取組があってもまだ具体化するシステムがないため、芦屋市内医療的ケア児等コーディネーター連絡会などで取組方法を検討する。